

# ピーマンの養液土耕栽培技術

鹿島地帯のピーマン栽培は作付け面積530haと全国一の産地となっています。近年、環境問題が重要視される中、農業分野においても環境に配慮した栽培技術の開発が求められています。そこで、施肥量の削減、増収、省力を目的にピーマンの養液土耕栽培に取り組んでいます。

## 養液土耕栽培とは

作物が必要とする養水分を点滴灌水チューブにより少量ずつ毎日与える栽培方法で、慣行栽培に比べ施肥量、灌水量を減らすことができます。

2月植のピーマン栽培で慣行栽培に比べ施肥量、灌水量をそれぞれ約40%減らすことが出来ました。

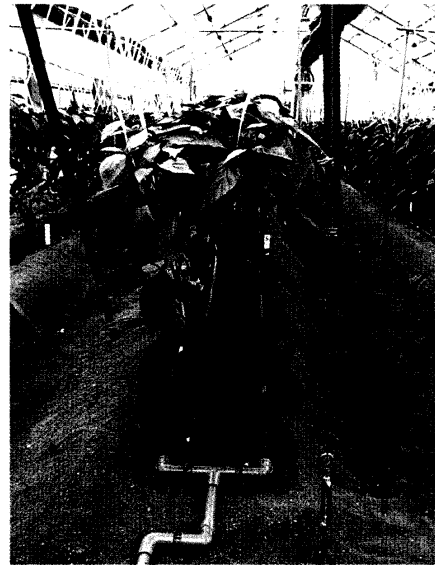


図1 ピーマンの養液土耕栽培

## 養水分管理



図2 土壌水分測定

養液土耕栽培では土壌水分や土壌溶液の濃度、作物の様子を見ながら養水分管理をします。

土壌水分計（pFメーター）を設置し、pF1.7～1.8くらいの土壌水分で管理します。2月植のピーマンでは、1日1株当たりの灌水量は、1.1～2.4リットルくらい、施肥チッソ成分量は1日1アール当たり9～26gくらいです。

## 収 量

養液土耕栽培では、高い収量が得られ、慣行栽培に比べ「みおぎ」で18%、「ニュー土佐ひかり」で13%増収しました。

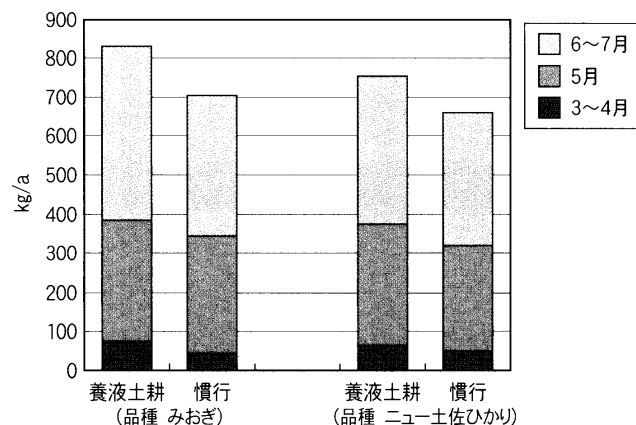


図3 収量 (2月植)